



そもそもなぜ議員になろうと思ったの？

私も以前は県外に出ていましたが、長崎に帰ってこれで生活できる幸せを実感しています。仕事さえあれば長崎に戻ってきたいと思っている県外で暮らす多くの若者がいます。だから彼らが戻って来れるように仕事を作りたい。それが議員を目指した一番の理由です。
しかしながら、長崎市だけでは経済対策も限定されてきます。市議3期12年の経験を基に、県政のなかで市と連携をとった展開に取り組んでいきます。

マエテツが考える3つの産業戦略

1. 攻める

食

長崎には安心安全な食文化があり、全国に負けない産物・加工品がある
コメ・じゃがいも・枇杷などの生産物や、新鮮な魚の水揚げ、養殖、蒲鉾などの加工品。

技

基幹産業の造船業に伴った部品生産と高い技術力
事業化につながる技術開発、産学官金の継続的な連携体制による地場企業支援。優れた先端技術を県内企業に導入。

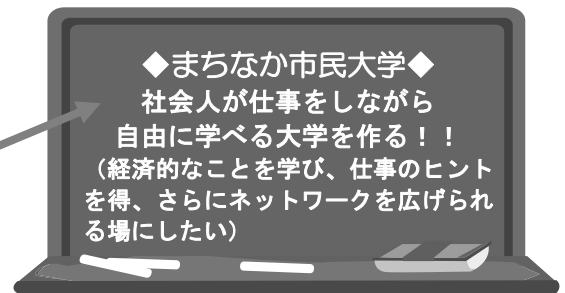
医

全国に先駆けた医療分野と質の高い病院施設
長崎大学病院、原爆医療、熱帯研究所等があり、プラス素晴らしい医療・看護力もある。

2. 育てる

地場中小企業の直接支援へのテコ入れ

- 複数の企業による共同受注等への収益向上支援
- 三菱の協会の収益向上のための技術力・販路拡大支援
- 企業の求める『情報提供』と『人材育成』



プラス1雇用増

雇用者数10人以上の企業は、プラス1人の雇用を促進！

3. 呼び込む

観

国内旅行者

まちづくりと連動した、観光都市ながさきの魅力『文化・食・酒・夜景』UPで人を呼び込む。



外国人観光客

教会群による世界遺産を目指し、長崎をカトリックの巡教地へ。また、上海航路復活を機にハウステンボスとの連携による「外貨取得」を目指す。

